

早期臨床実習を終えて

早期臨床実習にふれて

歯学科2年 須原 茜

2年生としての早期臨床実習は1年生の時の『見学』という雰囲気とは違い、実際に患者様に接したり、現場の空気を感じる、まさに『体験』の実習でした。私は専門的なことはおろか、基礎的なことも何もわからないまま実習に臨んでしまったため、毎回毎日が緊張の連続でした。

一番緊張したのはやはり患者様と接することでした。1年生のときは付き添い実習のときに病院内をご案内するだけで、診療中は見ているだけでしたが、診療の側として患者様にかかわるのは今回が初めてです。診療室の外来見学で患者様にエプロンをつけるとき、緊張のあまり手が震えてしまって表と裏を間違えてしまいました。また、担当の先生が少し席を離れたときに何を話したらいいのかかわらず、まごまごして変な空気を作ってしまったたり、ライトをあわせようとして患者様の鼻を照らしてしまったり……失敗を数えはじめたらきりがありません。しかし白衣を着て帽子をかぶり、マスクと手袋をつけていると不思議と気分が引き締まり、『自分は今、歯科医療の現場にいるんだ』ということを実感することができました。

また、今回の実習では手術室の中に入り、手術の様子を見学させていただきました。大きなガラス窓の向こうの緊張感がこちらにまで伝わってくるようで、見学しているだけの私たちも全員無言になり、気づくとじっと手術を見つめていました。手術室のつくりそのものや、徹底した衛生管理にも驚かされました。

この実習を通して、私は患者様と接することの難しさや楽しさ、歯科領域の幅の広さや奥の深さを感じることができました。そして自分の進む道を、(少しだけですが)イメージできるようになりました。これからはこの貴重な経験で学んだこと

を日々の学習に生かしていこうと思います。また、実習中は戸惑うことも多かったのですが、見学先の先生方が丁寧に説明をしてくださったり、質問に答えてくださったので無事に終えることができました。どうもありがとうございました。

早期体験実習に触れて

口腔生命福祉学科2年 山口 百々穂

今回、この早期体験実習に参加することで、私は今まで考えもしなかったことや知らなかったことをたくさん学びました。そして、将来についても今まで以上に深く考えるようになりました。

私たちは知的障害者総合援護施設である「ココニーにいがた 白岩の里」へ実習に行ってきました。ココニーは児童部、成人部、高齢期更生部、重複更生部、社会復帰部に分かれており、児童部、成人部では思い知的障害などのため、言葉によるコミュニケーションが困難な方や、行動上の障害が強い人たちが生活しています。園庭へ散歩に行ったり、障害の軽減を目指した治療訓練なども行っているそうです。高齢期更生部では、高齢期の知的障害者が、心身機能や日常生活能力の回復や維持増進を目指し、機能訓練や創作活動などを行い、また、住み慣れた地域への移行に向けた取り組みも行っているそうです。重複更生部では、知的障害のほか、肢体不自由や視覚障害など身体の障害を合併している人たちが生活しています。ここでは地域における自立した生活を目指し、リハビリや生きがい増進活動に取り組んでいるそうです。社会復帰部では、就労による社会的自立を中心に、職業前訓練や日常生活技術訓練などを行い、知的障害者の社会参加を目指しているそうです。

私たちの班は、ココニーに着いてからまず成人部の見学に行きました。見学の前の説明会のとき

に、成人部の入居者の人たちは知的障害が重く、言葉によるコミュニケーションがほとんどとれないと聞いていたので、どうやってコミュニケーションをとればいいのか分からず、戸惑いを感じていました。そして、その戸惑いを抱えたまま成人部の中に入ると、想像していた雰囲気とは全く違い、驚きました。少し暗めの静かな雰囲気を想像していたら、それとは正反対の、明るく温かく、そして楽しそうな雰囲気でした。そして、建物の雰囲気だけでなく、入居者の人たちもその雰囲気に合った明るい感じの人が多くに思いました。成人部のみなさんが笑顔で出迎えてくれて、私たちに気軽に接してくれたおかげで、私が初めに感じていた不安は一気になくなりました。

実習ということで、成人部の人たちと私たち学生と一人ずつペアを組み、コクニー内を散歩することになりました。成人部のみなさんは外に出て散歩することが好きらしく、とても嬉しそうに私たちの手をとり、廊下に出ました。私がペアになった方はとても明るい方で、散歩をしている間、ずっと歌を歌っていました。その歌で、緊張していた私もだんだん楽しくなってきたり、途中から私も一緒に歌を歌いながら、時に笑いあいながらコクニー内を散歩しました。このとき私は、言葉が通じなくても、何かを共有することでコミュニケーションがとれるということを実感しました。

成人部を後にして、次に社会復帰部の施設見学へ行きました。社会復帰棟は、個室を持ち、食事セルフサービスで、集団生活というよりも個人個人でそれぞれが生活している場のように感じました。中には、職員寮の一世帯分を借り、アパート暮らしのような環境の中で自立生活に向けた生活訓練を行っている人もいます。また、地元の企業や事業所での実習では、仕事だけでなく、継続して働くことや職場の人と協調して働くこと

の大切さを学んだりもするそうです。

私たちは、実際に社会復帰部の人たちが、仕事に必要な作業態度や持続能力を育てるための就労事前訓練を行っているところを、見学させてもらい、さらに一緒に作業もさせてもらいました。仕事の内容は、ねじしめでした。私が、作業のコツがわからずあたふたしていると、隣にいた人が話しかけてきてくれ、そして仕事の要領のいいやり方を教えてくれました。そのあと私たちは作業をしながら、たくさんのお話をしました。そのあいだも、私と一緒に作業をしていた人は、作業するものが少なくなってきたら、また新たにそれを取ってきてくれたり、私に指示を出してくれたりしてくれました。知的障害とは思えないくらいしっかりしていて、とても驚きました。私は作業と話すことに夢中になっていて、あつという間に時間が過ぎました。実習が終わる時間がきて、私が作業をしてくれた人にお礼をいうと、笑顔で「ぜひまた遊びに来てね」と言ってくれ、そして最後に握手までしてくれました。私はそれがすごく嬉しくて、もう少し一緒に作業をしたいと思ったし、また来たいと思いました。

この実習で、初めて知的障害の方と触れ合うことで、たくさんのお話を学び、たくさんのお話を考えさせられました。例えば言葉が通じずコミュニケーションがとることが出来なくても、一緒にできることはたくさんあるし、コミュニケーションがとれないからこそ、できることもあるということを知りました。今回は主に施設の見学ということで、歯科に関することはわからなかったけど、この実習を機に、健常者に対する歯科治療だけでなく、今回学んだことを活かしながら、障害者に対する歯科治療についても考えていきたいと思いました。